

ステップ Step 2 目標設定

理想の地域を考える

1. 地域ビジョンをつくってみよう

地域ビジョンとは地域協議会が目指す地域の理想像/将来像とその実現に向けた道筋などをまとめたものです。

目指す地域の姿がはっきりしないと地域づくり事業（手段）だけが先行するようなことになり、地域協議会の活動が何に寄与するのかが曖昧なまま、手段の実現ばかりに注力されることになってしまいがちです。

地域ビジョンを通して地域協議会が何を目的に活動をしているのかを明確にし、これを広く発信することで、地域協議会の参加者のみならず、地域に暮らす多様な方からの幅広い応援を働きかけることもできます。



<p>陶小学校区地域協議会の「地域ビジョン」</p>	<p>篠岡学区地域協議会の「地域ビジョン」</p>	<p>作成中 (R3 完成予定)</p> <p>小牧原小学校区地域協議会の「地域ビジョン」</p>
----------------------------	---------------------------	---

(1) 地域の目標や理想像（スローガン）を考える

「地域づくりミーティング」などを通して整理した長所／短所から地域の特徴や課題が浮かび上がってくると思います。

それらを踏まえ、今後、自分たちの地域をどうしていくか、どうなるとよいかについて話し合い、地域ビジョンや課題解決のための目標、活動のスローガンなどを考えていきます。

地域協議会の事業は、ここで決めた目標や理想像に向かって活動していくことになるので、誰もが分かりやすく馴染みやすいものにするとういでしょう。

◆ □□小学校区地域協議会の例

地域の 現状

防災について

□□では幸いにして昔から大きな災害に見舞われることもなく、土地が高く大きな河川などもないことから、比較的災害に強い地域と考えられてきました。その一方で、災害に対する意識や経験に乏しく、万が一、大きな災害に見舞われたときのための備えやマニュアル整備が必要とされています。

防犯について

□□では、日中は人目が多く、また夜間も防犯灯の設置や地域住民の有志による防犯パトロールボランティアなどによって、住宅の侵入盗などの被害が市内でも最も少なくなっています（×年×月 現在）。
 今後は、防犯パトロールボランティアの組織化と活動の支援および県道〇〇線付近で度々発生する交通事故に対して、歩行者やドライバー等への安全意識に対する啓発活動が必要とされています。

福祉について

現在、□□には5つの高齢者サロンがあり、それぞれが健康体操や演芸披露、様々なレクリエーションなどを通じて高齢者の健康づくりを支えています。しかしながら、地区の高齢化率は年々上がってきており、サロンの必要性も高まっていることから、活動の輪をさらに広げていくことが必要とされています。

理想像/ スローガン

安全・安心で誰もが暮らしやすい□□

Step2 目標設定

(2) 達成目標、課題解決の方法を検討する

目標やスローガンが決まったら、それらを実現し、課題を解決していくための具体的な方法（事業）について検討を行います。

大きな目標とは別に、事業毎に小目標を設定するのも良いでしょう。

小目標を数値化することで成果が分かりやすく、事業も企画しやすくなります。

事業と小目標を設定したら、達成に向けた期間も定めましょう。

◆ □□小学校区地域協議会の例

担当部会	事業	期間	事業毎の小目標
防 災	学区防災訓練の開催	毎 年	参加者〇〇〇人以上を目指す
	避難所運営マニュアルの策定	〇年までに	学区の防災関係者に配布する
防 犯	安全マップの作成・配布	〇年までに	学区内に全戸配布する
	パトロール隊の組織づくり	〇年までに	隊員 30 名以上を目指す
福 祉	高齢者サロン研修会の開催	毎 年	2月に1回以上開催する
	おたすけ隊の推進	毎 年	年〇件以上活動する

(3) 地域協議会の沿革や過去の活動記録を残す

委員の交代などで、新しく地域協議会活動に携わろうとしている人にとって、地域ビジョンは各地域協議会活動を検討する手がかりにもなります。

地域協議会の設立経緯や過去の活動実績を記しておくことで、在籍期間による委員間の知識格差を是正し、以降の話し合いや事業企画を円滑に進めることができます。

④ 地域ビジョンを作るときのヒント

地域ビジョンを作る過程で、ビジョンの骨子や細かい文言などは事務局や役員が中心になって作りこんでいくことが多いと思います。

その場合でも、節目節目で地域の方々が内容を確認し、意見交流する機会を設けましょう。

地域ビジョンは「地域協議会がめざす 地域の理想像」ということだけではなく、地域で話し合っにつくった「自分たちの地域の理想像」であるという認識をもてるようにすることが大切です。

2. 課題解決型事業を企画してみよう

地域づくり事業は「課題解決型」と「交流促進型」の2種に大分されます。住民同士の交流という目的がはっきりしている「交流促進型」と異なり、「課題解決事業」は対応する課題によって事業の目的から内容に至るまで多種多様です。

課題解決型の事業を企画する際には、すぐに事業の検討に入るのではなく、まずは地域の「課題（短所）」と「原因」を整理しましょう。

1つの課題に対して、原因は複数あることも多く、それらを1つでも多く見つけることができれば、より細やかで実効力のある事業を企画することができます。

📌 事業を企画するときのヒント

(1) 暮らしに身近な「防犯」や「防災」から考えてみよう

「空き巣やひったくりなどの犯罪が増加している」、「地震や風水害への備えが心配だ」、等々、防犯・防災に関することは、活動の大きな動機のひとつです。

安全・安心や危機意識の共有という視点からすると、防犯と防災の活動は共通点多いため、それぞれの活動に関わる方々が連携して取り組まれている事例も見られます。

(2) 楽しみ、生きがい、居場所づくりも重要なポイント

地域協議会の活動は防犯や防災だけではなく、活動そのものが楽しみ、生きがいとなっている場合もあり、例えば、健康を目的としたウォーキングでも、世代をこえた仲間とのふれあいや終わったあとの慰労会や打ち上げを楽しみに参加している人もいると思われれます。

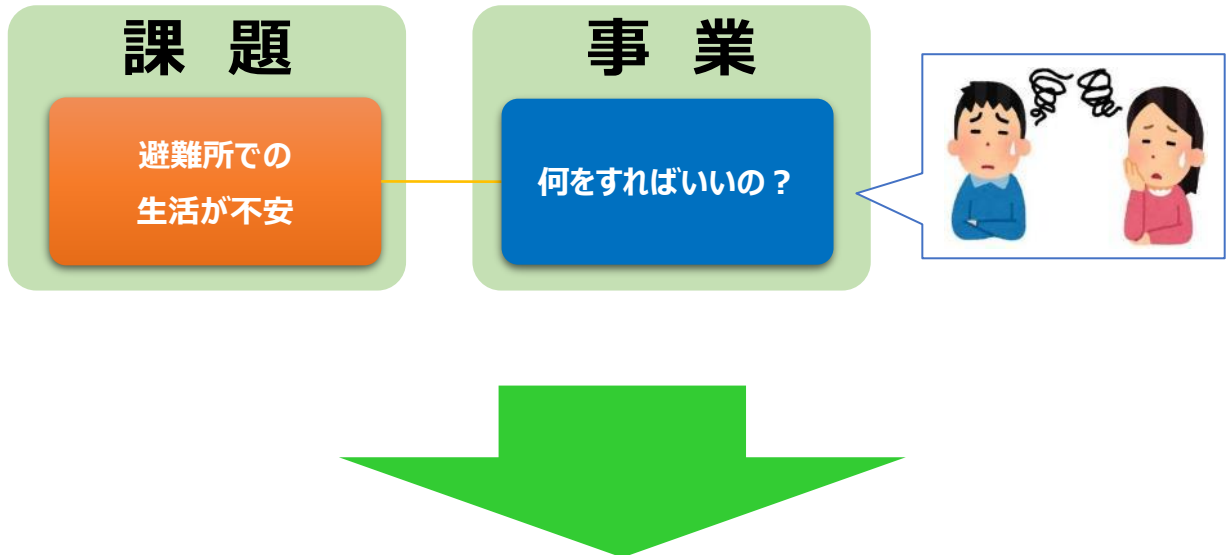
活動の押しつけや義務感だけでは、仲間も増えず、活動の継続も難しくなっていくます。

地域協議会では「楽しみ」という要素も重要なポイントです。

◆ 事業の企画に対する「原因」の有無



「原因」を明らかにせずに事業を企画すると
事業の目的や内容があいまいになってしまいがち・・・



「原因」を明らかにすることで、事業の目的も明確になり、
より効果的な内容で事業を企画することができる！

